TAIYO KOKI

One machine, One answer

第37期

2021年1月1日▶2021年12月31日

Business Report

株式会社 太陽工機

証券コード：6164

企業理念

私たちは、
先進的技術を駆使した
製品を創造し、
精密加工を通して
世界の製造業の発展に
貢献する

経営方針

1 内外の法令を遵守し、フェアな企業活動に徹する

2 イノベーションを追求し、最先端の技術力と提案力で社会に貢献する

3 企業価値を高め、顧客、従業員、株主、その他のステークホルダーに報いる

株主の皆様へ

To Our Shareholders

受注回復及びコスト削減により、増益を達成いたしました。

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2021年度の工作機械業界は、新型コロナウイルス感染症の再拡大や世界的な半導体供給不足などにより先行き不透明な状況が継続しているものの、設備投資需要は総じて回復基調で推移しました。

当社の受注状況も第2四半期以降回復基調にあり、通期受注高は前期の2倍を超える107.0%の増加となりました。当期期初の受注残高は、前期期初の半分以下でのスタートとなり、厳しい状況ではあったものの、高まりつつあるお客様の設備投資需要を迅速かつ的確に受注へつなげ、同時に生産から検収までのリードタイムの短縮に注力することで、期中の売上高及び利益の積み上げに最大限努めてまいりました。この結果、通期の売上高は前期同水準、利益は前期を上回る実績となり、特に下期においては、上期に対し売上高が36.2%増加、営業利益が264.8%増加と大きく伸長しております。

当事業年度の受注高は8,838百万円(前期比107.0%増)となりました。売上高は、6,687百万円(前期比5.6%減)となりました。利益面では、営業利益599百万円(前期比16.4%増)、経常利益652百万円(前期比26.3%増)、当期純利益441百万円(前期比27.8%増)となりました。

当期の配当につきましては、中間配当15円、期末配当15円の年間配当30円を実施することとなりました。

2022年度につきましては、日本工作機械工業会では、2022年の工作機械の年間受注額が1兆6,500億円になるとの見通しを示しており、海外向けを中心に回復が進み、過去4番目の水準となる見通しです。

当社におきましても、受注については、活発な設備投資需要が続く産業機械、工作機械関連企業向けや、引合いが増加している半導体関連企業向けを中心に、好調に推移する見通しです。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2022年3月

代表取締役社長 渡辺 剛

トップインタビュー Top Interview

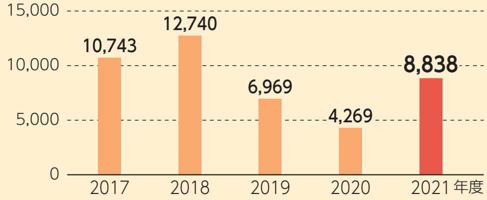
昨年後半から回復トレンドへ大きく突入した2021年度の工作機械業界。さらに今年に入ってからも国内・海外ともに回復が進み、特に外需が過去最高となる見通しの中、ここでは渡辺社長への取材を通じ、今後の海外拡大戦略等についてご説明します。

Q1 決算のポイントや据付地別・ユーザー業種別の状況など、2021年度の総括をお願いします。

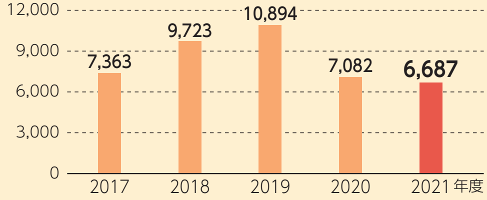
A 振り返れば2021年度は、2019年度末の半分以下となる期初受注残高26億円強からのスタートとなりました。また年初の時点では、コロナ収束が見えない中でどこまで受注環境が回復してくるか不透明な状況にありました。しかしながら受注環境は徐々に回復し、下期には大きく改善したことが売上に寄与しました。利益面については、当初計画以上の売上伸長に加えて、緻密なコスト管理・工程管理が功を奏し、各利益項目で二桁増の増益ならびに営業利益率1.7ポイントの改善を果たすことができました。

財務ハイライト

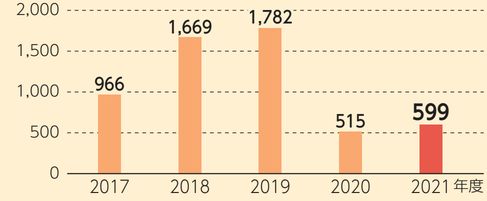
■受注高
(単位:百万円)



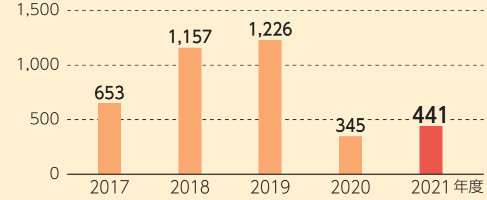
■売上高
(単位:百万円)



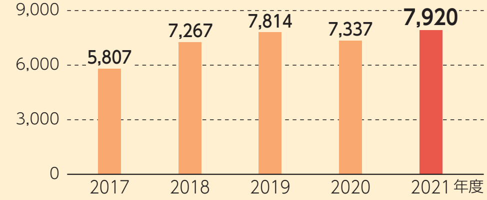
■営業利益
(単位:百万円)



■当期純利益
(単位:百万円)



■総資産
(単位:百万円)



(注)金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。

据付地別の状況では、日本/中国/欧州/米州の各地ともに受注環境は順調な回復傾向を示しました。

ユーザー業種別の状況では、好調な工作機械・産業機械が全体の受注拡大の牽引役となる中、自動車関連の受注比率が前年度比8.9ポイント減となったことが、例年からの変化の一つとして挙げられます。この点に関し、当社は自動車関連についてはトランスミッション関係の部品加工向けの製品を中心にラインナップしていますが、今後はEV市場の拡大に対応した開発投資を行い、新たな需要を取り込んでいこうと考えています。

Q2 2030年度の目標として海外受注比率50%・売上高200億円を掲げられていますが、その達成に向けて、まずは海外戦略の今後の方針等についてお聞かせください。

A 海外市場開拓強化の一環として当社では、親会社であるDMG森精機から当社海外営業部への出向受け入れなど、同社の営業ネットワークとの強固な関係づくりを続けてきています。彼らが当社に来てから2年くらいが経ちますが、コロナ禍の中でもWebを使って親会社グループの各拠点・各エリアに向けて勉強会が根気強く行われています。当社の海外営業担当者もそこに参加し、コネクション強化が図られています。そしてその成果は徐々に表れ、当年度では海外からの受注台数が過去最多となりました。これからもDMG森精機との関係強化を続け、さらには当社からの海外への駐在員の数も増やし、海外開拓を一層進めていきたいと考えています。

これら取り組みのほか、海外開拓へ向けて検討を進めているのがリモート診断システムの展開です。現在は国内市場のみでの販売としていますが、2022年度中に海外への対応体制をしっかりと整えて、海外向けにもリリースする計画です。このシステムは、コロナ禍の中でサービスに不安をお持ちの海外ユーザーに対して、そのような不安を払拭するアイテムになるであろうと大きな期待を寄せています。

Q3 続いて売上の裾野拡大に向けた取り組みについてはいかがでしょうか。

A マーケットの拡大に向けて現在注力しているのが、円筒研削盤のラインナップ強化です。汎用機として開発した円筒研削盤「CGX25シリーズ」については昨年10月に試作機が完成し、現在はテスト加工とコストダウンを進めているところです。ここ2年開催できていなかった7月のプライベートショーでの展示を目指して、今年の初夏頃までに正式に完成させ、本格的な販売を開始していく計画です。

4,600～6,300億円と目される世界の研削盤市場の中で、円筒研削盤は約3割を占めるボリュームゾーンです。それ故に競合も多い訳でありますが、このボリュームゾーンで対象ユーザーを掘り下げて販売し、その裾野が広がった

ところへ最終的には立形研削盤を始めとした当社の全製品をPRしていくことを狙っての取り組みであります。

今日まで対象ユーザーの拡大を図っていく中で、最初から立形研削盤メインで提案するとなかなか裾野が広がらない、ということが実情としてありました。また、立形研削盤は一部を除いて完全受注生産で在庫を持たない等のメリットがある一方、ロット生産の機械に比べると受注から納入までの期間が長くなるといったデメリットがあるということも事実でした。これらの点を踏まえ、しばらく設計変更やリニューアルを行っていなかった円筒研削盤を強力なドアノッカーとして新たに立ち上げ直し、事業フィールドの拡大を目指してまいります。

先ほどお話した円筒研削盤「CGX25シリーズ」のように汎用性を持たせた機械というのは、今後の事業拡大の中では重要な位置付けになるであろうと捉えています。円筒研削盤だけでなく、立形研削盤の汎用機シリーズ「Vertical Mate®」も含めて、先行生産を行える汎用機も同時に手掛けることによって、よりスピーディに製品を提供でき、売上も伸ばしていける、そんなビジネスモデルの構築を目指していきたいと考えています。

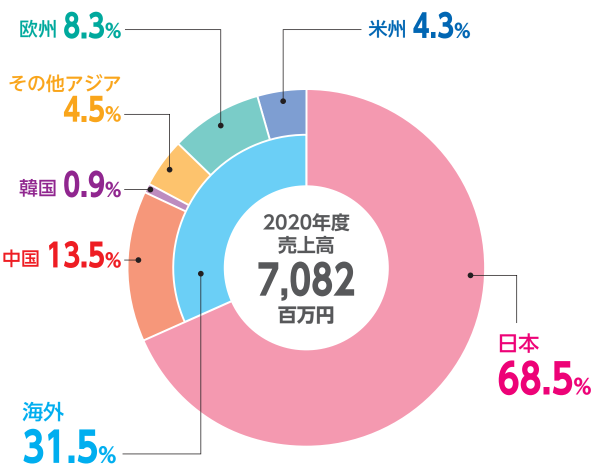
Q4 2022年度の見通しなど、株主の皆様へのメッセージをお願いします。

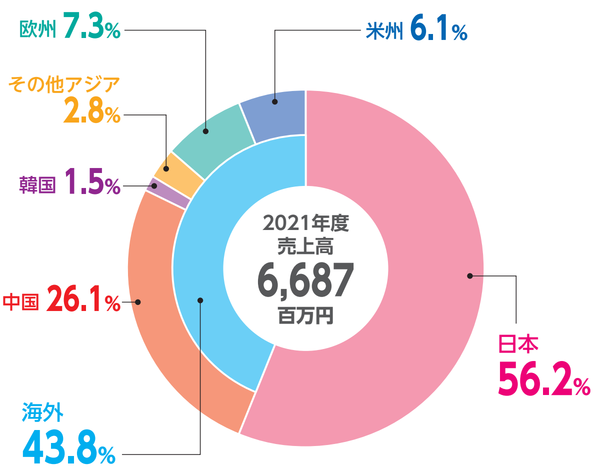
A 冒頭でも申しましたように、この2021年度は受注残高26億円強からの厳しいスタートとなり、目標達成に向けて期中受注・期中売上を大きく積み上げる必要がありました。そのためには受注をいただいて短納期で完成させ、お客様にお届けするという、正にスピード勝負の一年であったとも言えますが、社員の頑張りにより、期中受注・期中売上は40億円を超える結果となりました。今後に向けては、生産の現場だけではなく迅速な経営判断という点も含め、さらにスピード感のある事業活動を推し進めていく所存です。2022年度は比較的豊富な期初受注残高48億円と好調な受注環境を背景に、売上高は前期比約35.0%増・営業利益率12.8%の達成を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、当社のさらなる成長にご期待いただき、今後とも末長くご支援を賜りますようお願い申し上げます。

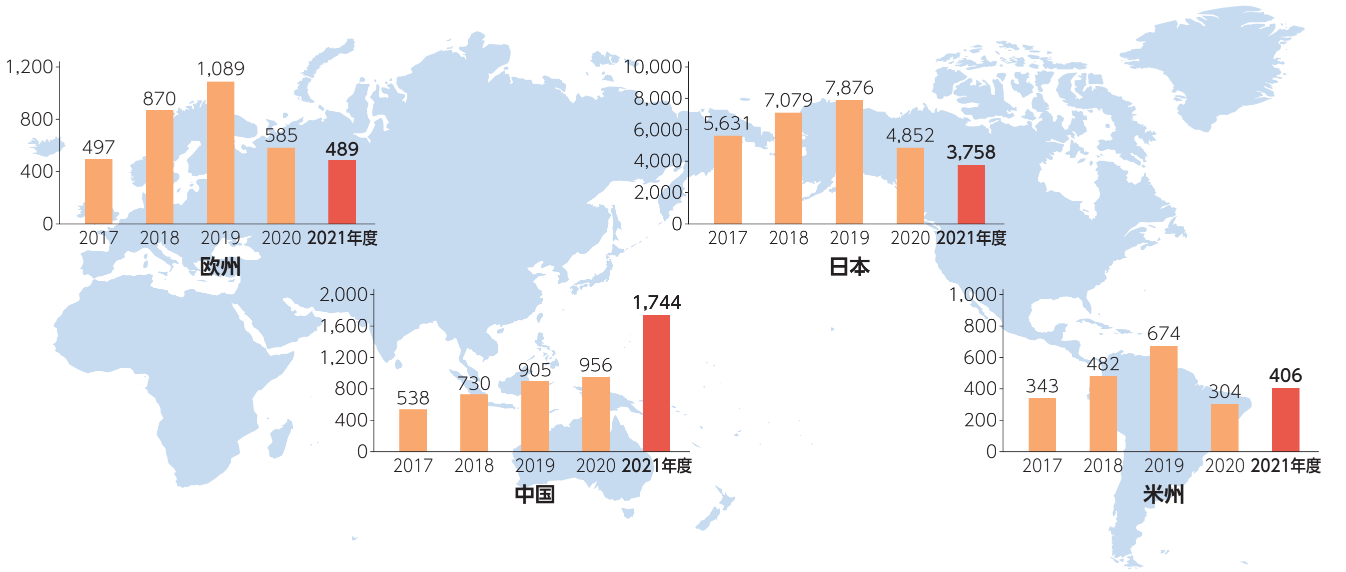
事業概況

地域別売上構成比



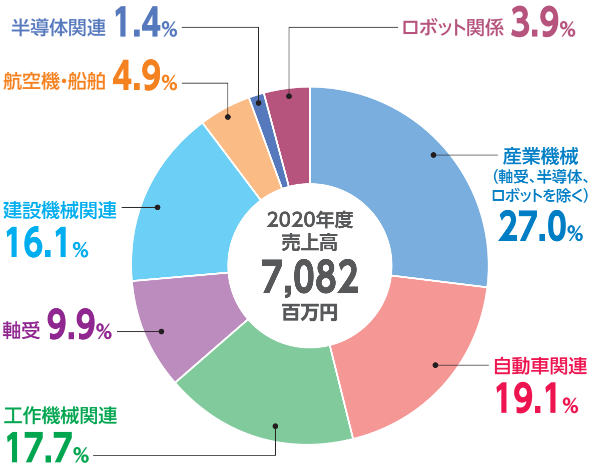


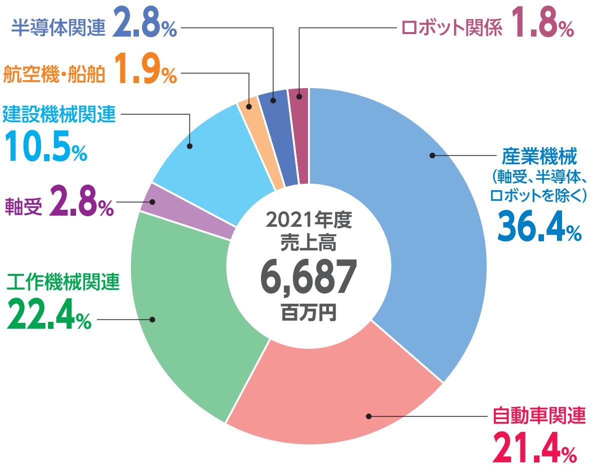
地域別売上高の推移 (単位:百万円)



（注）金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。

業種別売上構成比



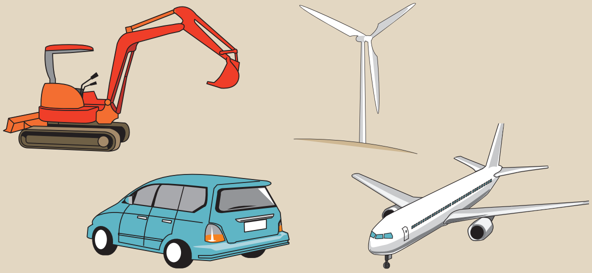


立形研削盤とは

立形研削盤は、部品を重力に対して垂直方向に回転させて加工する方式の研削盤で工作機械の一種です。当社がもつ独自技術により1989年に業界で初めて開発・製品化し、現在は主力製品として国内でトップシェアを占めています。加工する部品を垂直に設置するため、段取りが容易であるばかりか重力の影響を受けず加工精度に優れた特性をもち、工場内の省スペース化にも貢献します。

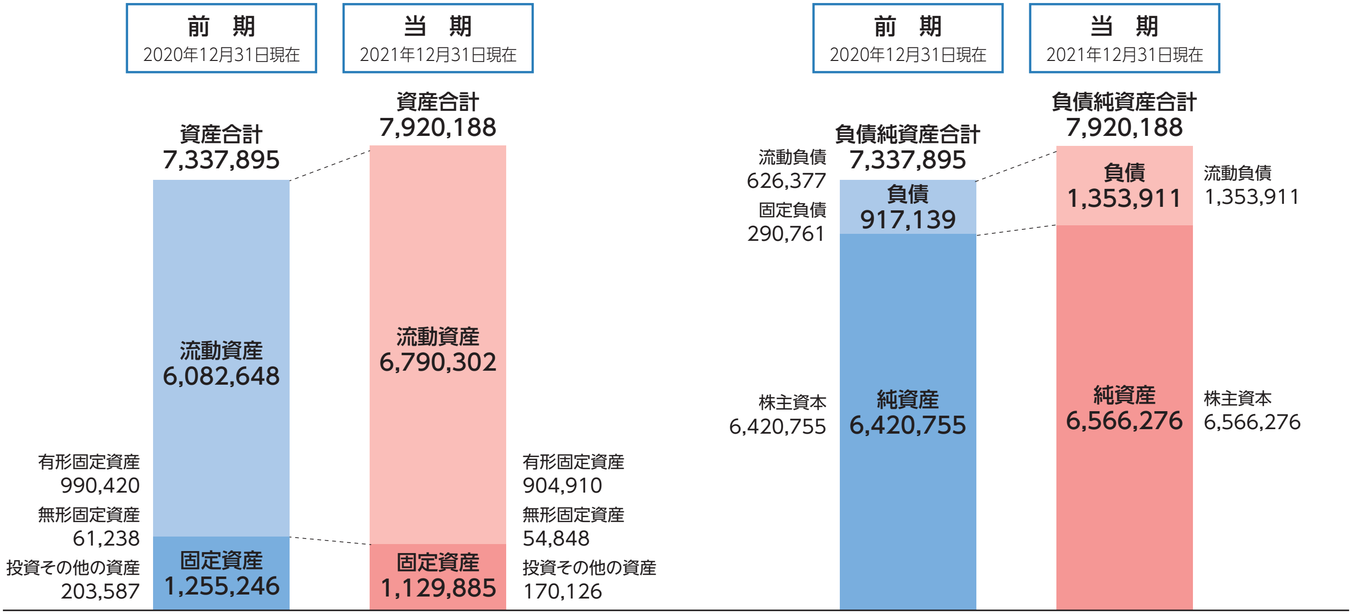
当社の研削盤が加工した製品は、こんなところで使われています。

当社の研削盤は、自動車や航空機、建設機械におけるエンジン部品やシャフト、ベアリング、風力発電設備の変速機といった重要部品の加工に利用されています。0.001mm単位で要求される精度に応えて、低燃費の実現や振動の抑制などによる乗り心地、安全性、長寿命等品質の向上に重要な役割を果たしています。

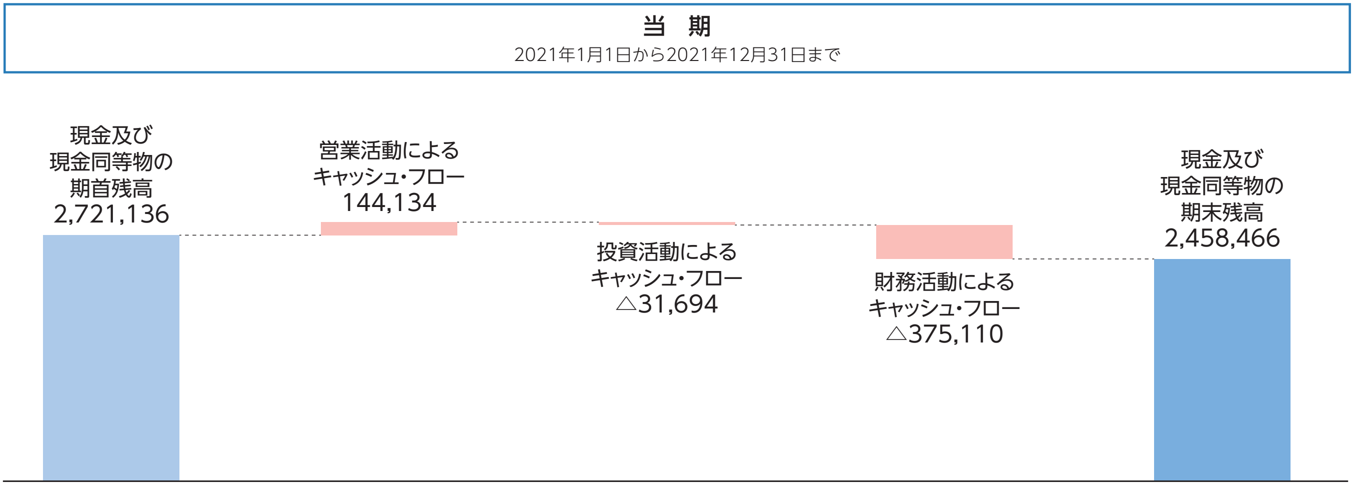


財務諸表

貸借対照表の概要 (単位:千円)

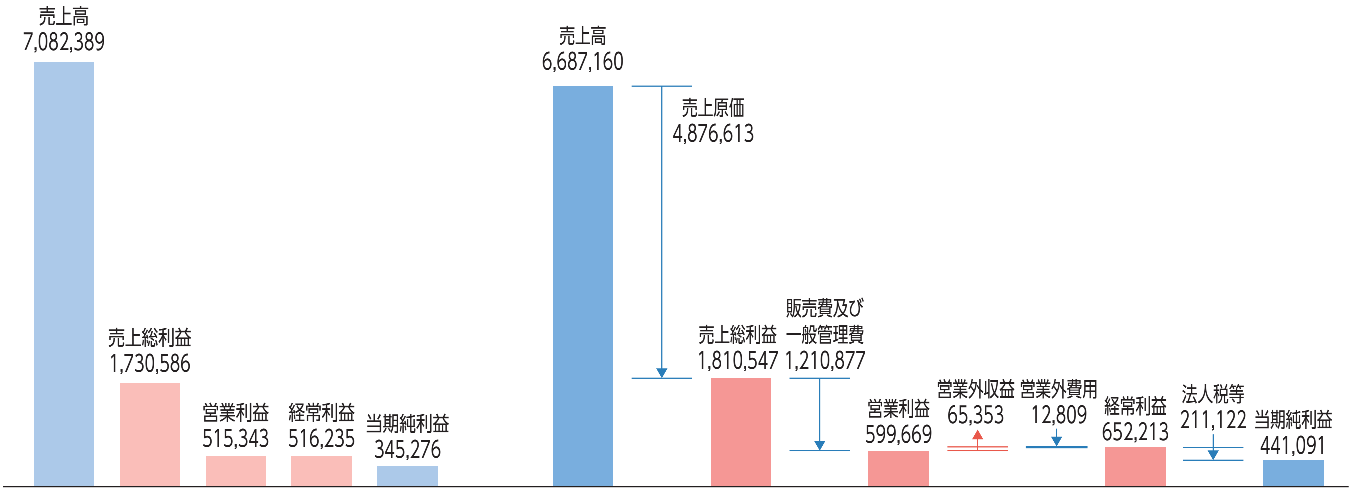


キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位:千円)



損益計算書の概要 (単位:千円)

前　期	当　期
2020年1月1日から2020年12月31日まで	2021年1月1日から2021年12月31日まで



株主資本等変動計算書 (単位:千円)

当期 2020年1月1日から 2020年12月31日まで	株主資本								純資産合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		自己株式	株主資本合計	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計			
当期首残高	700,328	387,828	144,552	532,380	5,188,968	5,188,968	△921	6,420,755	6,420,755
当期変動額									
剰余金の配当					△177,451	△177,451		△177,451	△177,451
自己株式の取得							△123,937	△123,937	△123,937
自己株式の処分			613	613			5,204	5,818	5,818
当期純利益					441,091	441,091		441,091	441,091
当期変動額合計	―	―	613	613	263,639	263,639	△118,732	145,521	145,521
当期末残高	700,328	387,828	145,166	532,994	5,452,608	5,452,608	△119,654	6,566,276	6,566,276

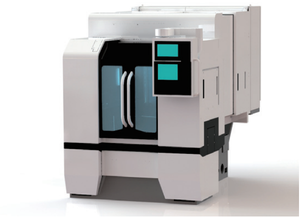
(注)金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。

新製品「CGX25シリーズ」発表

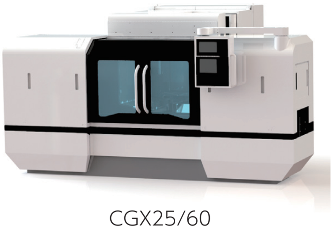
2021年10月にCNC円筒研削盤「CGX25シリーズ」を発売し、販売を開始いたしました。当機種は、小・中物パーツの量産加工機として長年ご愛顧いただいてきたCNC円筒研削盤のベストセラー機「CGNシリーズ」の後継機であり、海外での販売を視野に入れた次世代の円筒研削盤です。

従来機よりも幅広いニーズに対応しており、オプションで多彩な複合加工・オートメーション対応を可能にいたします。またCEマーキング（EU基準）に適合し、多言語対応の対話式オペレーションシステムを標準搭載しております。

今後は、研削盤市場において売上の多くを占める円筒研削盤を投入することで、円筒研削盤市場のシェアを獲得するとともに、海外での太陽工機の認知度の向上を推進させることで立形研削盤のさらなる拡販を図ってまいります。



CGX25/30



CGX25/60

SDGsへの取り組み～CO_2排出ゼロ電力への切り替え～

脱炭素社会の実現へ向けた取り組みの一環として、2021年7月より本社工場にCO_2排出量ゼロの電力のノンカーボンメニュー※を導入いたしました。

今回の切り替えによって、当社が排出するCO_2全体のうち電力購入由来である約70%（2020年実績：年間約1,522トン）を削減できる見込みです。

当社が開発・製造・販売している研削盤は、機械を生むマザーマシンとして、自動車・航空機・風力発電機・産業用ロボット・情報デバイスなどのあらゆる製造現場を支えています。高精度かつ高効率な研削加工によって、製品の品質はもちろん、現場の生産効率を高めて環境負荷を減らすことができます。

TAIYO KOKI One machine, One answer × ZERO CO2 EMISSION POWERED BY ENERES

これからも先進的な研削盤の開発・販売を通して、太陽工機は地球の豊かな未来のために貢献してまいります。

当社のSDGsへの取り組みについては、当社Webサイトで紹介しております。ぜひご覧ください。

※環境価値の付与によって、電力購入由来のCO_2排出量をゼロにするサービス。株式会社エナリス（本社：東京都千代田区）提供。

会社の概要 [2021年12月31日現在] Corporate Data

会社名	株式会社太陽工機 (TAIYO KOKI CO., LTD.)
資本金	700,328,200円
設立	1986年3月14日
主な事業内容	工作機械(各種研削盤)の開発・製造及び販売
従業員	236名
ホームページ	https://www.taiyokoki.com
本社所在地	新潟県長岡市西陵町221番35
関連会社	DMG森精機株式会社

役員 (2022年3月30日現在)

代表取締役社長	渡辺　剛
取締役副社長	棚橋　基裕
取締役	大野　和彦
取締役	森　雅彦
取締役	柿沼　康弘
取締役	多賀谷　実
常勤監査役	小林　秋男
監査役	間瀬　宏
監査役	宮沢　啓嗣
監査役	森岡　正樹

株式の状況 [2021年12月31日現在] Stock Data

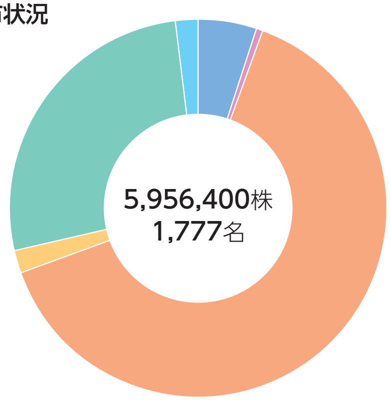
発行可能株式総数	18,000,000株
発行済株式の総数	5,956,400株
株主数	1,777名

大株主

大株主(自己株式は除く)	持株数(株)	持株比率(%)
DMG森精機株式会社	2,988,000	51.06
株式会社渡辺	508,000	8.68
株式会社井高	216,000	3.69
太陽工機従業員持株会	179,100	3.06
渡辺　登	100,000	1.70
株式会社第四北越銀行	80,000	1.36
株式会社三井住友銀行	80,000	1.36
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	78,900	1.34
MSIP CLIENT SECURITIES	69,300	1.18
神林　忠弘	69,200	1.18

(注)持株比率は、発行済株式の総数から自己株式(105,089株)を除いて計算しております。

所有者別分布状況



金融機関	309,100株	5.2%
証券会社	31,139株	0.5%
その他国内法人	3,806,100株	63.9%
外国法人等	106,300株	1.8%
個人・その他	1,598,672株	26.8%
自己株式	105,089株	1.8%

株主メモ

事業年度	1月1日～12月31日
期末配当金受領株主確定日	12月31日
中間配当金受領株主確定日	6月30日
定時株主総会	毎年3月
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社
同連絡先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 TEL 0120-782-031（通話料無料）
上場証券取引所	東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL https://www.taiyokoki.com （ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。）

UD FONT
見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

FSC ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 www.fsc.org FSC® C022915

VEGETABLE OIL INK

ネットワーク

<国内拠点>

本社・工場
〒940-2045 新潟県長岡市西陵町221-35
TEL. 0258-42-8808（代）　FAX. 0258-42-8810

東部営業所
〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町2-340 ウノビル7階
TEL. 048-658-8701　FAX. 048-658-8702

中部営業所
〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅2-35-16
（DMG森精機株式会社内）
TEL. 052-563-1270　FAX. 052-563-1310

西部営業所
〒564-0052 大阪府吹田市広芝町4-1 江坂・美貴ビル8階
TEL. 06-6378-7166　FAX. 06-6378-7167

<海外拠点>

中国（上海）
No.178 West Yindu Road, Songjiang District, Shanghai
201612, China
TEL. +86-21-6764-8876

アメリカ（シカゴ）
2400 Huntington Boulevard Hoffman Estates, Illinois 60192
TEL. +1-847-593-5400

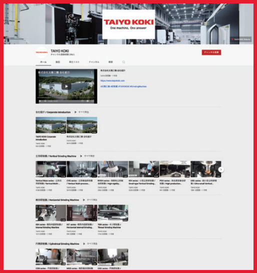
ヨーロッパ
Gildemeisterstrasse 60, 33689 Bielefeld, Germany
TEL. +49-5205-74-2233

Webサイトのご紹介

https://www.taiyokoki.com

当社ではWebサイトにて当社の企業情報を随時開示しています。製品紹介、各種リンク、サポート情報等を掲載しているほか、IR情報のサイトでは決算短信等がご覧いただけます。

関連サイト YouTubeチャンネルのご紹介



関連サイトとして、当社のYouTubeチャンネルを開設しております。
当社の会社紹介、立形研削盤を始めとした各種研削盤の加工動画等がご覧いただけます。